



No. 65
2022 Spring

山松舎
臨南寺

特集

瑩山けいざんぜんじ禅師ものがたり ⑩



四国で初めての禅宗寺院の
開山となって徳島へ渡られました

阿波(徳島)の城満寺へ

瑩山さまが二十八歳になられたある日
のことで。大乘寺の義介さまのもとに、
大乘寺を建立された富樫とがしさまが、一人の武
士を連れてお見えになりました。
「これは、これは富樫どの」
「義介さまお願いがあるのですが」
「どんなことでしょう」
「実はこちらは親戚の者ですが、四国の阿
波にお寺を建立いたしました。つきまして
は初住職に瑩山さまをお招きしたいので
すが」
「なに、瑩山をと申すか？」

「瑩山さまなれば、お徳、力量すべて立派
な方ですから」
「わしも歳じゃ。一番弟子の瑩山はわしの
手足同然、困ったのう」
「そこを何とかお願いいたしまする」
「ならば、三年間ということはどうじゃ」
こうして瑩山さまは阿波(徳島)の城満
寺の初住職として海を渡られました。

四国初めての禅寺、城満寺

城満寺は、徳島と高知の県境の町、海部
郡海陽町にあります。曹洞宗では九番目
に古い寺院で、四国では最古の禅寺です。
瑩山さまはこの寺の開山とされたのです。

城満寺が付近の文化に与えた影響は大き
く、近くには四国に数少ない曹洞宗の寺
院がいくつもできました。城満寺の裏手の
山は「禅僧山」と呼ばれ、その山の巨大な
杉は「禅僧杉」と言い、瑩山さまの弟子た
ちがその山で坐禅修行に励んだという伝
説が残されています。

瑩山さまは翌年の正月、お授戒じゅがい会を厳
修され、最初の五人の仏弟子を作られま
した。瑩山さまは、三十一歳の時、大乘寺に
帰られますが、三年間で七十人余りにお
授戒され仏弟子を育てられました。

禅宗の未開の地ともいべき四国の地
に、瑩山さまは曹洞宗の仏法を広めるいし
ずえを築かれたのです。

その後の城満寺

瑩山さまが大乗寺にお戻りになった後、
二百八十年間は歴史に登場することはあ
りませんでした。天正三年(一五七五)長
宗我部元親の軍勢が阿波海部に進攻し、
戦火によって城満寺が焼失、廃寺となり幻

の寺と伝えられていました。

大正十四年(一九二五)瑩山さまの六百
回大遠忌を機に復興計画が立てられます
が、途中で難航。昭和二十七年(一九五二)
念願の寺号復活を果たします。昭和四十
四年(一九六九)住職に赴任した大槻哲哉
老師が日本全国を托鉢し、このお寺の大
切さを訴えて浄財を集め、本堂や山門、坐
禅堂を再建。昭和四十八年(一九七三)には
瑩山さまの分骨を拝請して開山塔が建立
されました。

三十二歳になった瑩山さまは、義介さま
の法を受け継ぎ、後継者の地位につきます
が、その話は次回といたしましょう。



總持寺から跳龍室玄関を移築した城満寺の山門

孫に手を引かれて参る彼岸かな 柴田美佐子

三月二十四日の彼岸会には ご家族そろってお参りください

春分の日を中日とし、前後三日 大切な時間です。

ずつをあわせた七日間が「お彼岸」です。今年、三月二十一日が「彼岸の中日」、十八日が「彼岸の入り」、二十四日が「彼岸結願」になります。

春分の日、太陽が真東から、ぼり真西に沈む特別な日です。私たちの生きるこの世「此岸」と、故人の世界である「彼岸」が最も近くなり、思いが通じやすくなる日とされます。お彼岸は、平安時代の初めに貴族から始まり、江戸時代には庶民に広まりました。

病気や悩みが多く先行き不透明な此岸から、迷いや苦しみのない心安らかな彼岸へ。お彼岸の七日間は、気持ちよく彼岸に旅立てるよう、生き方を見直し、善行を施し、ご先祖様に感謝をささげる

臨南寺では、彼岸結願の二十四日午後二時から彼岸会施食会を修行いたします。ぜひ、彼岸会にお参りいただき、ご先祖様に手を合わせましょう。当日ご都合の悪い方は、不参でのご回向をお受けいたしますのでお問い合わせください。

なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては中止されることもあります。

ご家族そろってご先祖様に感謝をささげましょう



ご家族そろってご先祖様に感謝をささげましょう

寺景 臨南百景



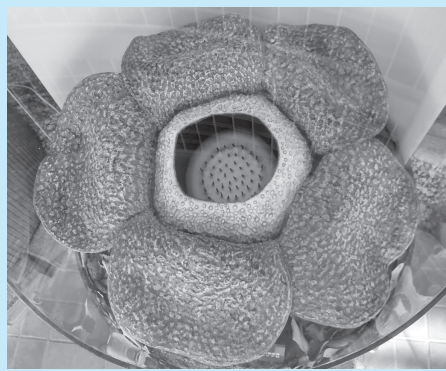
長居公園の 自然史博物館を のぞいてみませんか？

臨南寺すぐそばの長居公園にはさまざまな施設があり、イベントや催し物が開催されています。いま自然史博物館で開催されているのが、特別展「植物 地球を支える仲間たち」です。

植物は私たち人間と同じ祖先から進化しているという最初の展示から驚かされます。そして、高さ三メートル近い巨大な花序や世界最大の花「ラフレシア」の実物大模型にも目をみはります。物言わぬ植物たちが助けを呼んだり助け合ったりする姿も感動的です。失敗を重



高さ2.72mのショクダイオオコンニャクの実物大模型



直径が約80cmの世界最大の花ラフレシア(模型) 京都府立植物園 蔵

※料金:大人1,500円、高大生800円、小中生500円
※お問い合わせ:大阪市総合コールセンター 06-4301-7285

ねながら青い菊が開発される最先端の研究も紹介されています。私たちの生命を支えてくれている植物の驚くべき実態や、まだまだ解明されていない植物の不思議さに触れられるチャンスです。四月三日まで開催されていますので、臨南寺にお参りのついでにお立ち寄りになつてはいかがでしょうか。

どうぞよろしくお願いいたします 平岩照康

昨年九月よりお勤めさせていただいております、兵庫県丹波市出身の平岩照康と申します。東京の駒澤大学を卒業後、横浜市にある大本山總持寺にて昨年の七月まで約四年間修行させていただきました。長かったように短かった修行生活を思い返してみれば、辛かった思い出の連続でした。

皆様は修行と言えどもどんなことを思い浮かべられるでしょうか。滝に打たれる修行とか、護摩行とか、たまに「乾布摩擦をするの?」と聞く方もいらっしゃると思います。大本山總持寺の開祖、瑩山禪師様は、普段当たり前にやっている坐禅、食事、作務(掃除)を毎日繰り返し返して行う事こそが修行であると説かれています。一見簡単なように聞こえますが、それを本山では百人以上いる修行僧がみんな二緒に行います。誰か一人でも勝手な行動をしたり、規律を乱すようなことをすれば、それはもう修行ではありません。みんな揃って同じことを毎日繰り返すことこそが、日々の修行につながるのです。

平成二十八年に臨南寺で厳修された報恩大授戒会で、戒師をお勤めになられた江川辰三禪師様の言葉に「我、逢人」という言葉があります。「我、



人と逢うなり」という言葉は、人と人との出会いこそが命であり、出会いの一つひとつを大事にしなさいという教えの言葉です。

辛かった修行生活を乗り越えられたのも、本山で出会った全国各地から集まった仲間たちのおかげであると感じます。その出会いがなければ修行生活を乗り越えられなかったのももちろん、今の自分がここにいなかったかもしれない。それほど人と人との出会いは大事なことなのだと感じました。

このたびは御縁をいただき、臨南寺にやってみりました。臨南寺でもお檀家様との一つひとつの出会いを大切に、日々自らの精進に努めて参りたいと思います。まだまだ未熟な私ですが精一杯、臨南寺のために尽力していく所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

臨南寺行持予定 (三月・四月・五月)

○ **彼岸会お墓経** ひがんえ はかせつう *三月二十日・二十一日 午前十時〜午後三時 (受付は随時)

お彼岸のお墓経を行います。臨南寺にお墓をお持ちの方に限ります。(回向料二万円)

○ **マトリお墓経** はかせつう *三月二十日・二十一日 午前十時〜午後三時 (受付は随時)

お彼岸のお墓経を承ります。お申込み多数の場合は各家ご同席で読経いたします。(回向料二万円)

○ **春季彼岸会施食会** ひがんえ せじきえ *三月二十四日 本堂にて 午後二時〜午後三時三十分

お彼岸供養の法要を行います。お彼岸はご先祖様に感謝する大事な期間です。ご先祖様を偲び今あることに感謝いたしましょう。どなたでもご参加いただけます。(回向料二万円)

○ **釈尊降誕会(花祭り)** しゃくそんこうたんえ *四月八日 本堂にて

お釈迦様の御誕生日に、感謝と報恩の法要を行います。本堂前にお誕生仏と甘茶を夕方まで置いています。

○ **がつしょう園マトリ合同法要** *五月八日 午後二時〜

マトリにご納骨された方々の慰霊の法要を行います。法話のあとにマトリでご焼香していただきます。

*なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、中止することや変更する場合もございます。臨南寺の行持については、臨南寺のホームページでご確認いただくか、電話でお問い合わせください。

寺務所の電話 ○六・六六九八・二〇二(九時〜十七時)

早朝坐禅会、写経会とも

しばらくお休みさせていただきます。ご了承ください。

一月十五日、

弁財天祈禱会を 修行しました

新しい年を迎えた二月十五日、臨南寺では恒例の弁財天祈禱会が修行されました。祈禱会に先立ち、大澤住職から紫雲殿の建て替えと本堂の内装のリニューアルが行われることが発表されました。

その後、『大般若波羅蜜多經』六百巻が転読され、新型コロナウイルスの猛威が一日も早く終息し、新しい年が安らかで穏やかになりますよう心を込めて祈願いたしました。また、参列された皆様の無病息災、家内安全を願って、お札、お守り、守護矢が、全員に授けられました。



コロナ禍の一日も早い終息をご祈念いたしました

お墓参りにも マスクを忘れずに



お墓参りされる方の中にたまにマスクをされていない方をお見掛けします。オミクロンウイルスに、「うつらないため」にも「うつさないため」にも、マスクは必要です。マスクのご着用を忘れずをお願いします。もう二つ手指の消毒ですが、休憩所にアルコール消毒液をご用意しております。どうぞご自由にお使いください。オミクロンにはまだまだ警戒が必要です。私たち一人ひとりが身の回りからウイルスを遠ざけるためにご協力をお願いします。

桜がもうすぐ 咲き始めます



境内で一番早く咲く桜は、本堂前の河津桜です。毎年三月には満開を迎えます。山門前の東日本大震災復興祈願桜も芽吹き始めています。どうぞお楽しみください。

編集後記

今朝、懐かしい人から電話がありました。小学校の同級生からのLINEの電話です。昨日LINEに彼女の名前が来たのでコメントしたのですが、その返事の電話でした。懐かしさに17分も話してしまいました。スマホも時々いいことがあります。(M)

「ほ〜っと」65号

令和4年2月

編集・発行： 稜伽林「ほ〜っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com